

2018.6.4 &lt;計2枚&gt;

京都大学記者クラブ加盟各社 各位

立命館大学広報課

## ～平安の都にタイムスリップ～

## AR 技術で朱雀門から羅城門の平安京を疑似体験

## スマートフォンアプリ「バーチャル平安京 AR」を6月4日リリース

立命館大学の矢野桂司(アート・リサーチセンター、文学部 教授)は、AR(拡張現実)技術を用いて平安京の景観を現在によみがえらせることができるスマートフォンアプリ「バーチャル平安京 AR」(Android 版)を株式会社キヤドセンターと共同で開発し、2018年6月4日(月)より Google Play にてサービスを開始いたします。

これまで矢野教授とキヤドセンターは、「バーチャル京都」として現代に加え、平安時代や江戸時代の京都の景観を3次元都市モデルとして取り込み、Web上に3次元の地図を再現するサービスを提供してきました。

今回リリースする「バーチャル平安京 AR」アプリは、「バーチャル京都」の3次元技術とGPSによる位置情報を活用し開発しました。アプリを起動し実際の風景にスマートフォンをかざすと、天皇在所の大内裏内(南北約1.4km×東西約1.2km)の施設をAR表示で体験できるほか、朱雀門から羅城門までの南北約4kmにわたる朱雀大路上の8箇所の地点とJR京都駅前の1/10スケールの羅城門模型に設置されたARマーカーにより、その場の360度VR表示で平安京の眺めを体験することができます。

## ●矢野教授のコメント

京都市(京都アスニー)の1/1000の平安京復元模型をベースに作成したバーチャル平安京を用いて、平安京のAR・VRアプリを公開しました。特に、大内裏内のARモデルやJR京都駅前の羅城門模型の360度VR画像は、現地に行き体験できるアプリとなっています。当時、大内裏の南の正門であった朱雀門のある、現在の千本通押小路あたりから、千本通を北上していただくと、内裏内の建物を見ることができます。また、京都駅前の羅城門模型の前で、スマホをARマーカーにかざすと、羅城門と京都の三山と西寺や東寺の塔を見ることができます。

※本研究は、立命館大学研究所重点プログラム及び科学研究費助成(研究課題 17H00839)を利用しました。

## &lt;概要&gt;

アプリ名称:バーチャル平安京 AR

対応 OS:Android6.0以降

対応言語:日本語

サービス地域:日本

サービス開始日:2018年6月

価格:無料



## ●取材・内容についてのお問い合わせ先

立命館大学広報課 担当:池田

TEL. 075-813-8300

<http://www.ritsumeai.ac.jp/>既存の枠を超えて未来をつくり出すこと  
それが立命館のアイデンティティー**Beyond Borders**

## 参考資料

### ■アプリの特徴

図1 イメージ画像

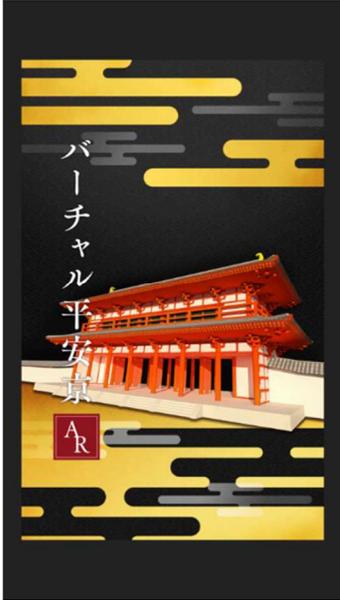


図2. AR モード



ARモードでは平安京の大内裏の範囲を対象とし、現在の景観に同座標にあった平安時代のモデルを重ねて見ることができる。大内裏内の地図が表示されるのでどちらを向いているのか分かるようになっている。10秒間隔で現在地が更新されるため、移動にも対応できる。

図3 VRモード



VRモードでは朱雀門から羅城門までの各大路の景観を、360度見ることができる。

図4 羅城門

京都駅に移設された羅城門の10分の1模型の前で、アプリを起動して、ARマーカー(犬矢来の右手に設置)にかざすことで、羅城門南側の平安京外からのVR景観をみることができる。

